

特集 Special Topics

命の大切さを知り、思いやりの心を育む

人に優しくなる心がうまれる「赤ちゃんのチカラプロジェクト」

市では、市内すべての小・中学校で、自他の生命を大切にすることを育む「命の教育」を推進しています。

そのなかでも、「赤ちゃんのチカラプロジェクト」は、児童生徒が各校を訪れる赤ちゃんを抱き上げ、その笑顔や泣き顔などに直接触れることで命の大切さを心と体で実感する、「命の教育」の中核をなす貴重な体験の場となっています。

今号では、清明小・二中で行われた事業の様子をご紹介します。

問合せ 指導課指導主事 幸野・25552

子どもたちは今…

「日本の若者は諸外国と比べて、自己を肯定的に捉えている者の割合が低く、自分に誇りを持っていない者の割合も低い。」内閣府「平成26年度版子ども・若者白書」

現在、日本の思春期の子どもたちの多くが、アメリカやイギリスなどの子どもたちと比べ、自己肯定感(自尊感情)を持ちにくい現状が明らかになってきています。

こうした背景には、少子化や核家族化の進展に伴う希薄な人間関係などの影響から、他人と触れ合うことが減少し、人を思いやり、共感する力が弱くなっていることが考えられます。また、このよう

な状況は、思春期の子どもたちの将来の虐待のリスクを高めるだけではなく、いじめや暴力行為の遠因の一つともなっています。

思春期の子どもたちの生活を支り豊かなものとするために、他者への関心や共感力を高めるとともに、命を大切に思い、自らを慈しむ心を育む機会を得ることが、今求められています。

赤ちゃんのチカラプロジェクトとは

こうした現状に対して、清瀬市では、平成21年度に市内のNPO法人「子育てネットワーク・ピッコロ」を中心としたプロジェクト委員会に

よる「赤ちゃんのチカラプロジェクト」が立ち上げられ、平成22年度から市内の中学生を中心に実施されてきました。(平成24年度から市の委託事業「赤ちゃんのチカラプロジェクト」として全小・中学校で開催)

このプロジェクトは、赤ちゃんとの触れ合いを通して、他者への関心や共感力を高めるとともに、自らや、周囲の人たちの命の大切さを感じることを目的としています。また、赤ちゃんの保護者とも接することにより、将来の子育ての予備的な体験を行い、赤ちゃんへの愛着感を醸成し、育児への戸惑いや不安を和らげることも目指しています。

プロジェクトは、赤ちゃんの成長過程や赤ちゃんの保護者との関わり方などを学ぶ「講義」と、赤ちゃんと一緒に遊んだり保護者から子育ての話を聞くなどする「体験学習」から構成されています。

今年度は、小学校でNPO法人「アイの皆さん」、中学校でピッコロの皆さん、そして、多くの親子の方のご協力の下実施しています。

期待される効果は？

事業を行うことで、ふだんの生活では得ることのできない、参加者相互の「気づき」や「喜び」が促されます。主に、保護者や児童生徒、赤ちゃんは次のような効果が期待されます。

- 保護者**
 - ◆児童・生徒と交流することにより、成長した我が子の姿をイメージできます。保護者同士の交流の場となります。
 - ◆子どもが赤ちゃんを抱いた時に泣きやまず、赤ちゃんを保護者に戻す場面がよくありますが、保護者の手に戻った赤ちゃんはすぐに泣きやむことがほとんどです。この時、保護者自身が改めて自分の必要性を感じます。
- 赤ちゃん**
 - ◆いつもと違う人に抱っこされることで、体の発達が促進されます。
 - ◆たくさんの人に好意的な言葉かけられ、優しくまなざしを向けられることにより、対人関係において安心感が育ちます。
- 児童・生徒**
 - ◆子どもに対する親の思いを知る良い機会になるとともに、自分も大切に育てられたことを知り、自他を大切にすることが育ちます。
 - ◆成長する赤ちゃんに触れ合うことにより命への畏敬を深めます。

赤ちゃんのチカラプロジェクトin清明小

6月13日に行われた赤ちゃんのチカラプロジェクトには、延べ13組の親子が参加しました。6年生の子どもたちが赤ちゃんに触れ合い、命の大切さを実感しました。

①命について事前勉強

まず、命についての講義を受講し事前に知識を得ます。

講義では、赤ちゃんとの接し方や、大泉門(骨と骨がくっつく前の隙間で骨で保護されていない部分は強く押しはけないなどの注意事項)、人形を使用して学びます。また、妊娠時と同様の重さのジャケッットを付け、妊婦体験もします。



約7kgの重さに子どもたちは思わず「重い！」。

③赤ちゃんに触れ合う

赤ちゃんに触れ合っている最中、子どもたちは「歯が生えているよ」と赤ちゃんの状態を笑顔で観察し、こわごわしながら抱っこにも挑戦していました。



互いに声を掛け合い、大切そうに抱っこをする児童に、保護者の方も思わずにっこり。

②いざ、赤ちゃんに対面

知識を得て心の準備ができると、手洗い・うがいをし、清潔な状態で赤ちゃんに対面します。



赤ちゃんがびっくりしないよう、そっ〜と入室する児童からは、優しさや笑顔があふれています。

保護者の方は児童に赤ちゃんの名前やあやし方などを紹介します。



「音が出るものが大好きなので、袋をガサガサしたりすると笑うよ」などと、気さくなあいさつに、児童の緊張もゆるみます。

赤ちゃんのチカラプロジェクトin二中

6月20日に行われた赤ちゃんのチカラプロジェクトには、延べ25組の親子が参加しました。中学3年生の生徒が赤ちゃんに触れ合い、命の大切さを実感し、講座終了後は、市内3か所のつどいの広場でボランティア活動ができる「ジュニアサポーター養成講座」の認定証をもらいました。

①座学と接し方の準備



子どもの成長と発達過程について、ピッコロ理事長の小俣さんが説明します。



最初は人形で練習。分からないことは今のうちに質問しようと生徒は皆積極的。

②いざ、赤ちゃんに対面



思ったより重い赤ちゃん。生徒からは「命の重さ」との声があがります。



泣いた赤ちゃんを保護者に戻すとびたりと泣きやむ。その早さに生徒は、「早っ!」と叫ぶ

③認定証渡し



触れ合い終了後は、保護者の皆さんから一言ずつメッセージをいただきました。



離乳食をあげるなど、ほほえましい様子が見られます。

小学校

小学校での事業の主体となっているウイズアイの皆さんにお話を伺いました。



ウイズアイのスタッフの皆さん(約50人が在籍)

この事業は、あらゆる年齢や立場の方がそれぞれ学ぶことができます。生涯教育として素晴らしい、地元のパワーでこのような事業が実現できる清瀬を誇りに思います。

小学生にとっては保健体育での知識とは異なる、五感をフル稼働する学びの場になっていると思います。中学生になって同様の授業を受けると、感じ方が異なるため多くの学びがあるのではないのでしょうか。そのためにも事業の継続、地元NPOや行政の連携が不可欠だと思います。

事業にあたり、保護者の方が気になるのは衛生面なので、会場の清掃や、児童の皆さんの手

洗いうがいを徹底してもらっています。一方で、赤ちゃんのストレスも相当なものなので、負担が少なくなるよう気を付けるとともに、児童に赤ちゃんの成長を実感してもらえよう、生後4〜10か月の赤ちゃんに参加してもらっています。

今後も、より多くの皆さんに本事業を知っていただき、さまざまな生活の場面で赤ちゃんを通じた地域の輪が広がることを願っています。

ご協力いただいた保護者の方の感想(一部)

「赤ちゃんの前に目をキラキラさせて、児童の皆さんもこんな風に愛されて育ったんだなと思いました。自分の子どもが小学生になり、この授業を受ける時、どんな気持ちになるのかな、と

楽しみにになりました。・「赤ちゃんについて学ぶことで、自他を大切にできるようになると思います。今後もこの事業が続きまますように」

事業を体験した清明小の児童の感想(一部)



清明小の児童

・お母さんは大変な思いをして、ここまで育ててくれたんだと分かり『恩返しをしてあげたい』と思いました。・命の大切さが分かりました。今日学んだことを将来生かしたいと思います。・早くおとなになって子どもを産みたいと思いました。抱っこしてみたい、手や足が小さくて、とてもやわらかかった。見た目によらず、重かったです。ずっと抱っこしていたいくらいかわいかったです」

中学校

中学校での事業の主体となっているピッコロの理事長の小俣さんに、お話を伺いました。



ピッコロのスタッフの皆さん(約90人が在籍)

生徒には、今まで感じたことのない感情が育まれたと思います。赤ちゃんの小さな指で手を握られた時、大切に扱われないと、という様子が伝わりました。慈しむ気持ちが自然に生まれ、自分たちも慈しまれていたことに気が付いたのではないのでしょうか。赤ちゃんの力の素晴らしさを感じました。

事業では、お母さんたちが先生となり、オムツ替えや離乳食を食べさせる体験もさせてくれました。人は体験しないと身に

子どもにも伝わり、離乳食を食べさせてもらうなど本人も大満足でした。皆さんにも良い経験になれば幸いです。・「子育てを始めて、夜泣きや兄弟げんかでも今は大変ですが、中学生の皆さんを見て、ここまで育てた母親はすごいなと元気づけられました」

ご協力いただいた保護者の方の感想(一部)

・どこかで会ったら声をかけてほしいですし、いつでも自分の子と遊んでほしいです。・「今日は泣きっぱなしでしたが、電車やバスで泣いている子どもがいても、自分もそうだったんだ、と優しい気持ちで見守ってくれようと思います」

子どもにも伝わり、離乳食を食べさせてもらうなど本人も大満足でした。皆さんにも良い経験になれば幸いです。・「子育てを始めて、夜泣きや兄弟げんかでも今は大変ですが、中学生の皆さんを見て、ここまで育てた母親はすごいなと元気づけられました」

事業を体験した二中の高辻律平さんに、感想を伺いました



こねて言うことを聞かない第一次反抗期)の話を聞き、自分の弟も2歳の時が一番かんしゃく持ちで扱いにくかったことを思い出して、それを受け入れて育ててくれた母親に感謝するとともに、いろいろな意味で母親はすごいなと感動しました。またぜひ参加したいです。赤ちゃんや小さい子と触れ合う機会がもっとたくさんあれば、うれしいです。